

住吉三神と神功皇后

□住吉三神の誕生

住吉三神の誕生は、伊弉諾尊の禊(みそぎ)神話に由来します。「日本書紀」によれば住吉三神とは伊弉諾尊が黄泉国(よみのくに)から帰ってこられ、身について禊れ祓うため海に入って禊祓をしたときに生まれた神様のこと。

海底で生まれた神が底筒之男命(そこつつのおのみこと)、海の中ほどで生まれたのが中筒之男命(なかつつのおのみこと)、海の上で生まれたのが表筒之男命(うわつつのおのみこと)
これら三柱をあわせて「住吉三神」と呼びます。

つまり、海の三層(底・中・表)を司る神であり、海そのものの安定と清浄を象徴しています。

□神功皇后と住吉三神の関係

神功皇后の新羅遠征の神話に由来します。神功皇后が、仲哀天皇の崩御後に三韓征伐(朝鮮半島遠征)を企てたとき、航海の安全と戦勝祈願をおこなった際に神託を受けたのが住吉三神です。(住吉三神は天照大御神の御心により神託されたと謂われている)

『日本書紀』によると、皇后が筑紫の地(福岡県博多)で住吉大神の神託を受け、「我、海を平(たい)らげ、皇后の御船を守護せん」と告げた。この神託に従い、神功皇后は住吉三神を祀って海を渡り、戦いに勝利して無事帰還したとされています。

その帰還後、長門(下関)に住吉三神(長門國一宮)の荒魂、摂津(大阪)に住吉三神(摂津國一宮)の荒魂創建した大阪の住吉大社と伝えられます。

また筑紫(博多)にある住吉神社(筑前國一宮)は伊弉諾尊が禊をされた住吉三神が生まれた場所としてお祀りされています。

整理すると、

住吉三神が誕生したのは伊弉諾尊の禊(みそぎ)神話に由来、大阪の住吉大社が創建されたのは、神功皇后に由来ということです。

(因みに、大阪住吉大社は、住吉三神と神功皇后(息長足姫命)が祀られている)